

ジョージア (グルジア) 便り その60 ファッションの発信地トビリシ

文 高野陽年 text by Yonen Takano

恥ずかしながら僕は先日モデルデビューを果たした。

バックステージで男女問わずモデルたちが人の目を気にせず堂々と着替えている様に僕はあっけらかんとし、言われるがままにソビエト時代に建てられた彫刻モニュメントの下に特設されたキャットウォークを見よう見真似で歩く。

ジョージアのブランド、Situat ionist (シチュアショニスト) のデザイナーに頼まれ、周りは目鼻立ちの整った西洋人ばかりの中、僕は独特なアジア人枠で彼らと同じようにファッションショーでポーズを決めてきたのだ。ショーは緊張するから一杯ひっかけるといいよと他のモデルに言われていたが、普段から観客の目にさらされている自分は、たかが歩くだけだろうと全く緊張しなかった。周りを見渡すと観客には世界中からゲストが来ていたようで、日本人の姿も多く見られた。それもそのはず、メルセデスベンツが運営する世界規模のファッションイベントの中でもこのデザイナーはかなり期待されていて、彼は今回のトビリシだけではなくパリでもミ

ラノでもコレクションを発表しているようだ。

実は今密かにトビリシは世界の注目の的になっている。

ワイン発祥の地としての評価は定着して久しいが、ファッションでも脚光を浴びつつあるのだ。都市の名もそれほど知られていないのにと意外に思うだろう。僕も実際「ヨーロッパの外れの小さな国が？」と高を括っていたところがあった。ところがバレンシアガというフランスのハイブランドのトップにジョージア人デザイナーが就任して以来、彼に続けと若手デザイナーたちが精力的に活動しているのだ。

彼らの情熱はすさまじく、トビリシが持つ古今東西が入り乱れる独特の空気感をともなう面白くものを作り上げていく。西欧の先進国のファッションショーはどこか近未来、次世代を意識されているが、トビリシのものはノスタルジーが漂う。そして重要なモチーフになっているのが戦争と退廃で、ひと世代前に遡りそこから想像するだろう未来である。それは国全体の雰囲気と同じことが言えるかもしれない。お世辞にもトビリシは東京が形容される

ような近未来都市ではない。まだまだ発展途上で先進国の大都市に並ぶまでにははるかに長い道のりがある。そんな人々は未来を想像できずに、かつての幻影に都市の理想を抱くのだろう。そのかつての都市も長い歴史の中、戦争で破壊され再生するというプロセスを繰り返してきた。その街の持つ空気が独特なデザインを培養する下地になっているのではな

いか。
Situatio nistの洋服は最近日本でも販売されるようになっていく。いずれジョージアのデザイナーが日本でも話題になるのは間違いない。流行を先取るにはトビリシに注目するべきである。

Profile

2011年にロシアの名門ワガノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリに引き抜かれグルジア国立トビリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。現在はその団の主要なダンサーとして国内外の公演で劇場を牽引している。立教大学中退。

